

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



重症心身障害児者病棟の夏祭り

あわら病院の取り組みと課題について(災害対策)

事務部長の小西でございます。日頃より当院の運営につきまして、温かいご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

さて、今年の夏は熊本地震、千葉県の大規模土砂災害などの災害が多発しており、被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

被災地の状況を鑑みますと、当院にとっても「自力避難が困難な患者さんの安全をいかに守るか」「病院機能が低下・停止した場合にどう対応するか」といった課題は、非常に重く身につまされるものです。

万が一の際にも迅速かつ適切な対応ができるよう、当院では関係医療機関や行政との連携を密にした避難訓練の実施や、事業継続計画(BCP)の更なるブラッシュアップなど、より実践的な災害対策の検討を進めております。

当院の基本方針は「多くの人の笑顔のために」です。患者さんやご家族、地域の皆様、そして職員すべての笑顔を守り抜くためには、日頃の備えと、それを支える安定した病院経営が欠かせません。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



事務部長
小西 宏一

動悸の原因を調べる新しい方法

循環器科医長 青山 大雪

今回は動悸(ドキドキ)の原因を調べる方法の進歩についてお話しします。

動悸は不整脈で起こることもあれば、正常な脈を強く感じているだけの場合もあります。原因を調べるには、症状が出ている時の心電図を記録することが重要です。従来のホルター心電図は一般的に24時間記録のため、症状が少ない方では診断が難しいことがありました。2021年からはApple Watchなどで心電図を記録できるようになり、受診

時に波形を医師へ見せることができます。さらに、2026年6月から7日間記録できるホルター心電図にも国の医療費の仕組みが対応したため、当院でもこの検査を導入しています。この7日間のホルター心電図を施行する際はシャワーも可能であり、週1回ほどの動悸がある方は、検討してみてもいいでしょうか。



患者さんに寄り添う看護

5階病棟看護師長 林 祐樹

当病棟では、認知症が進行して自分の思いを伝えることが難しくなった患者さんや、意思決定を支えるご家族がい



ない患者さんに対しても、その人らしい医療やケアを提供することを大切にしています。入院前の施設で確認された本人の意向や生活歴、好きだったこと、日々の過ごし方、最期をど

のように迎えたいかなどの情報をもとに、患者さんの思いを捉えることに努めています。さらに医師、看護師、理学療法士、管理栄養士など多職種で患者さんにとって最善の治療やケアについて日々、検討を重ねています。

今後も地域の施設や関係機関との連携を深めて、患者さんのこれまでの人生や価値観を尊重した医療とケアを実践していきたいと思っています。

外来看護

外来看護師長 井之上 妙香

あわら病院の外来には、慢性疾患を抱え長く通院されている地域の患者さんが多く来院されます。外来看護では受診の機会を大切に、患者さんやご家族との対話を通して、療養生活の変化や困りごとを把握しています。長い受診経過の中で生じる加齢による身体・認知機能の変化は、患者さんやご家族だけでは気づきにくいこともあります。その変化を早期に捉え、疾患や治療への理解、セルフケアの状況などを確認し、重症化予防につなげています。また、治療

継続が難しい場合には、外来看護師間でカンファレンスを行い情報共有し、多職種や地域の関係機関と連携して支援しています。

患者さん一人ひとりの生活背景や思いを踏まえて、治療と生活をつなぐ看護支援を行い、患者さんが住み慣れた地域で、その人らしい生活を続けられるよう努めてまいります。



薬剤科だより

薬剤科 調剤主任 中山 実智恵

令和8年5月末、当院薬剤科では、全自動秤量散薬分包機、錠剤監査支援システムが新たに導入されました。散薬の秤量や一包化薬の監査といった、これまで薬剤師が担ってきた業務を機械が正確かつ効率的に行う様子を目の当たり



にし、医療現場にもAIや自動化の波が確実に押し寄せていることを実感しています。

近年、薬剤師には「薬を正確に調剤する」に加え、「患者さんの薬物

療法を支える」役割がより強く求められています。機械に任せられる業務は積極的に機械化し、処方内容の評価、副作用や相互作用の確認、多職種との情報共有、患者さんへの服薬支援など、人にしかできない業務の質を高めていく必要があると感じています。

当院薬剤科では、新たな設備を省力化のためだけではなく、医療の質と安全性をさらに高めるための基盤として活用し、今後も地域の医療機関の皆様と連携しながら、安全で質の高い薬物療法の提供に努めてまいります。



地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

株式会社なるざ「グループホームとものいえ」

株式会社なるざは、平成17年度より、訪問看護ステーションから事業を開始し、通所介護、高齢者グループホーム、看護小規模多機能型居宅介護、居宅支援事業所、一般介護予防事業等をあわら市二面にて運営しています。

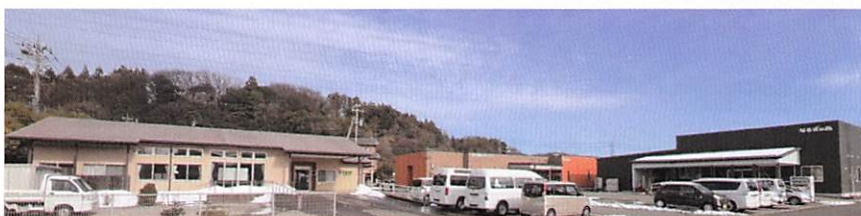
これまで、一貫して自立支援を基本理念とし、職員の意識改革から地域づくりへの参画まで幅広く「その人らしい生活の具現化」を目標として、取り組んできました。国立病院機構あわら病院様とは協力病院協定を交わしており、今後さらに重要となる医療介護連携を強化していきたいと考えています。

「グループホームとものいえ」では、定員9名の入居者様が共に生活する中で、その人らしさが発揮でき、かつ楽しみながら生活が送れるよう支援しています。施設環境は居心地良く親しみを感じられるよう常に工夫するよう、また、日常生活に彩りのある活動と参加の機会を提供できるよう努めています。

自分の運動記録や作品を入れて自身で管理できるマイカバンや自分のお部屋は自分でお掃除タイムなどの工夫をしています。

代表取締役 谷川 真澄

〒910 4103 福井県あわら市二面2-302
TEL.0776-77-2261 FAX.0776-77-2245



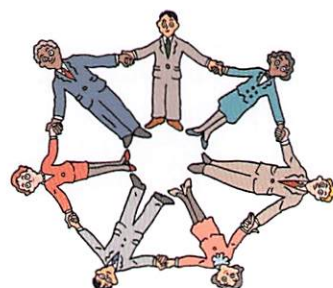
人と人、人と社会をつなぐ地域連携を目指して 医療福祉連携部門 医療社会事業専門員 新谷 裕子

近年、単身世帯の増加や地域コミュニティの変化に伴い、家族、地域、職場などを通じた人とのつながりが弱まり、人との関わりを持ちにくい状況にある方が増えています。そのような中で、医療や福祉の支援は制度やサービスの提供だけでは十分ではなく、人と人、人と社会がつながり支え合える環境づくりがますます重要になっています。

あわら病院では、患者さんやご家族の抱える課題を医療機関だけで解決するのではなく、地域の医療・介護・障害・福祉関係者の方々と対話を重ねながら、一人ひとりを支えるネットワークづくりを大切にしています。支援を必要とする方を既存の制度につなぐだけでなく、その方を中心として多様な人や機関が関わり合える関係づくりを意識して取り組んでいます。

また、私たちは「対話」そのものを支援の一つと考えています。対話を通じて思いや困りごとを共有し、それぞれの立場を理解し合うことで、新たな支援の糸口や地域での支え合いの形が生まれることがあります。こうした考えのもと、地域の実務者会議への参加や関係機関への連携訪問を通じて、顔の見える関係づくりにも取り組んでいます。

今後も当院は、地域の方々や専門職と連携しながら、誰もが安心して暮らし続けられる地域共生社会の実現に向けて、人と人、人と社会をつなぐ取り組みを進めてまいります。



外 来 担 当 医 表

(令和8年10月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総 合	内 科	青山 大雪	辻 俊比古	大槻 希美	浦崎 芳正	伊藤 和広
	小 児 科	川崎 亜希子* (15:30~)川満 徹*	川満 徹*	川崎 亜希子* (15:30~)川満 徹*	川満 徹*	川崎 亜希子* (15:30~)川満 徹*
専 門	リ ウ マ チ		津谷 寛		津谷 寛	
	血 液 ・ 腫 瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 (第2・4)
	生 活 習 慣 病			桐場 千代 (第2・4)		
	老 年					栗田 敦 (第1・3・5)
	神 経		岩本 諒			北崎 佑樹
	循 環 器	見附 保彦		見附 保彦	見附 保彦	
	外 科		大槻 忠良	大槻 忠良	大槻 忠良	大槻 忠良
	整 形 外 科	布谷 信				
	皮 膚 科		若原 真美*			
	眼 科				吉岡 達也*	
	地 域 ケ ア		栗田 敦		桐場 千代	
	禁 煙 外 来	見附 保彦				

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診療 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診療は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ホームページ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



土用の鰻メニュー



7月26日 土用の丑の日に合わせて、『鰻の蒲焼』を提供しました。

鰻には、疲労回復効果のあるビタミンA、B1 や、カルシウム、たんぱく質など栄養成分が豊富です。疲れがたまりやすい暑い夏の日にぴったりな献立となりました。

看護体験ワークの参加者を募集しています

看護体験ワークとは? 看護師とペアで看護業務を体験、時給と交通費も支給します。お昼ご飯のお弁当も用意します。

申し込みはあわら病院 人材募集Instagram のリンクから申し込みできます。また、実際の看護体験ワーク内容なども確認できますので気になった方はチェックしてください。

看護体験ワーク募集中
看護師・看護学生の方

随時
受付



ワーク内容

- ・ワーク内容:
ベッドメイキング・搬送業務
患者さんの見守り・清潔維持など
- ・給 与: 時給 1,140円/時間
- ・期 間: 随時相談
- ・ワーク時間: 応相談 (1日・半日)
- ※ 看護師とペアで働きます
- ※ 病院の雰囲気わかります
- ※ 交通費も完全支給
- ※ お昼ご飯も準備します

独立行政法人

国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北湯238-1

TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉 FAX.0776-79-1261

URL <https://awara.hosp.go.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

ハピラインふくい線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話1本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017